



新人学芸員の奮闘日記

これは、とある科学館に採用された筆者の日常を描いた物語である。

11/1 本日より科学館勤務となる。朝、市役所の教育委員会に出勤。9時より辞令交付。諸手続きの後、昼前に科学館に到着。学芸課、事務所、技術担当者、警備員さん等、いろいろな方に挨拶して回る。昼食後は、科学館の業務に関する研修を受け、その後、館内を見学。閉館後、案内員さんに挨拶。慌しく一日目が終わる。

11/2 9時より展示品の立ち上げ・チェックのために館内を周る。既に電源が入っている展示品もあるが、個別に立ち上げが必要なものも多い。自分が科学館に遊びに行ったときは、そんなことを考えなかったが、お客さんが来る前にスイッチを入れておくのも重要な仕事である。

その後、オムニマックスの映写方法について説明を受ける。1週間ほどでマスターして欲しいとのことである。案内員さんの挨拶に合わせて裏で作業しているのは、実は学芸員であった。

3時より本日最終回のプラネタリウムの解説を、コンソールの後ろで聞く。私にとって（恐らく科学館に来る多くの人にとって）憧れの場所である。投影中の操作はだいぶ自動化されているようだが、機械がかなり複雑化しており、その仕組みを理解するのは大変そうである。

11/8 今日オムニマックスの操作を中心に学ぶ。また、フィルムをセットする作業を実際に行ってみる。見ているのと実際にやってみるのはだいぶ違う。フィルムを掛けるローラーをひとつ飛ばしたりしてしまったり、作業手順を抜かしてしまったりする。

11/15 今日オムニマックスは通常のシフトで入る。立ち上げと最終回を担当。閉館後、いよいよプラネタリウムの操作練習が始まる。投影の操作方法について、一通り説明を聞く。しかし難しい。ディスプレイが3台あり、あちこちにスイッチがある。とにかく一生懸命メモを取る。そのあと2回、操作だけを練習する。これに解説が加わるのは今の状態ではとても不可能。

11/16 今日夕方、プラネタリウムの立ち上げ方、および操作練習を行う。操作練習は何度か繰り返し、スムーズに行えるようトレーニング



オムニマックス準備中

するが、なかなかメモを見ないと思わせない。

11/17 昼間は投影の合間にコンソールの前で、何度か操作方法のイメージトレーニングを行う。夕方には、マイクの前でしゃべってみる。日が沈むところまでを、原稿を見ながらしゃべる。それだけでも途中で詰まってしまう、なかなか滑らかに話せない。

11/25 とりあえず解説として話す内容は記憶したが、思い出しながら話すのでときどき言葉につまる。しかも話し方が棒読みになってしまう。もっと感情を込めて話すように言われる。

11/30 昨日に引き続き休館日。新番組の装てん等が行われる。私は解説の練習を行う。昨夜のメンテナンスで、プラネタリウムの6本の恒星ランプがすべて消えるという現象が起こったため、メーカーに緊急に来てもらう。

12/1 今日は所内の全員が集まり研修が行われる。朝は火災の消火・避難訓練。午後からは、明日から新メニューで行われるサイエンスショー、オムニマックス、プラネタリウムの実演・試写が行われる。この際のプラネタリウムの解説を私が担当し、これが初解説になる予定だった。ところがプラネタリウムにまたトラブル発生。昨日直したはずの恒星ランプが突然すべて消える。予定変更して解説はなしで、後半の自動投影の部分のみ試写をする。

12/2 プラネタリウムは、とりあえず修理完了したようだ。不安が残るため、最初の3回の投影は他の方が行い、私の初解説は今日の最終回となる。朝、ネームプレートが届く。早速ホール入り口の本日の解説者のところに取り付ける。少し誇らしい気分になる。別室で時計を見ながら解説の練習をする。いろいろ落ち着かない。直前のオムニマックス終了前にコンソールで待機する。お客さんが出たところで、マイクの音量を調整する。解説席の後ろには、2人ついてくれている。いよいよ話し始めるが、少し声に元気がないのが分かる。ポインタ（解説に使う矢印）を持つ手が震えているのが分かるが、どうしようもない。お客さんの反応がないので心配になる。予定より少し早く話が終わってしまうが、そのまま後半のプログラムに入る。まあ、なんとかトラブルなく終わることができた。

こうして何とか曲がりなりにもプラネタリアンとしてスタートを切ることができたものの、実はプラネタリウムの解説中、裏では様々な冷や冷やする出来事が起きている。それはまた別の機会に。

(江越航：科学館学芸員)



プラネタリウムコンソールにて